

## 平成 22 年度 第 4 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

平成 23 年 1 月 31 日（月） 10 時 00 分～12 時 00 分  
札幌市役所 18 階 第四常任委員会会議室

### 1 開会

### 2 委員長あいさつ

### 3 報告事項

- (1) 平成 22 年度（11 月末）工事等発注状況について
- (2) 平成 21 年度札幌市入札・契約等審議委員会意見書に対する市の対応状況について

### 4 抽出工事等の決定・審議

- (1) 道道真駒内御料札幌線（有明 8－16 地先～有明 45－1 地先間）用地境界杭設置測量
- (2) 施設整備事業の内配水施設 国庫補助事業 平岸配水池耐震化工事その 1

### 5 平成 22 年度札幌市入札・契約等審議委員会の意見書について

### 6 質疑応答

#### (1) 平成 22 年度（11 月末）工事等発注状況について

（委員） 昨年度と比べて、建築工種の入札参加業者数が少し減少しているがこれには何か原因があるのか。

（事務局） 昨年度と比べて、発注件数が増えているため、業者の技術者の空き具合などで入札に参加しなかったのではないかと考えられる。

（委員） 業務の失格入札の発生状況は、昨年度と比べてどうか。

（事務局） 21 年度は、615 件のうち 526 件、率で言うと 85.53%で失格入札が発生している。今年度の 11 月末では、88.43%で発生し、昨年度と比べて 3.12 ポイント増えている。

#### (2) 平成 21 年度札幌市入札・契約等審議委員会意見書に対する市の対応状況について

（委員） 路線測量について、実際に入札参加業者数が減少しているというデータはあるのか。

（事務局） これは企業局を除いた数字だが 21 年度は、平均で 43 者が入札に参加。22 年度 8 月末では、23 者くらいになっており競争が緩和されている。

（委員） 測量は、平均入札参加者数が多いが、これは測量業者そのものが多いということか。

（事務局） 市内業者だけで 230 者くらいの登録がある。現在は、A、B の 2 区分で等級を分けているが、来年度はこの区分を A、B、C の 3 区分にすることで競争の緩和を図りたいと考えている。

(委員) 品質の確保を目的に、成績重視型入札をどんどん増やしていくと市の事務量が増えるのではないか。このまま拡充を続けることは可能なのか。

(事務局) 品質の確保の点から考えると成績重視型だけではなく、総合評価も含めて考える必要があるが、確かに一般の入札方式に比べると事務量が増えるので、大幅に増やすことは現実的には難しいと思う。

他にも前回の委員会では、実績の評価年数を5年とするのがいいのか、2年とするのがいいのかなど、色々な議論があったので、こういった部分も含めて検討していく必要があると考えている。

(委員) 路線測量について、競争を緩和するために、発注時期の平準化を行ったということだが、逆に発注時期を延ばすことで競争が激化する可能性はないのか。

(事務局) 従前は、8月～9月の短い期間に集中して発注していた。業者は、この短い期間の中でチャンスを逃さないために、とにかく取りたい一心で、自社の技術者の数や技術力を考えずに、入札してくるケースがあり得た。

発注時期を6月～9月にすることで、一時期に入札が集中する事態は避けられているのではないかと考えている。

### (3) 抽出工事等の決定・審議

#### ア 道道真駒内御料札幌線（有明8-16地先～有明45-1地先間）用地境界杭設置測量

(委員) 予定価格を万単位から円単位に細かくすることで、くじ引き入札を起こりにくくすることはできないか。

(事務局) 今後、検討が必要かもしれないが、そこまで細かく出していくと事務的な課題が色々出てくると考えられる。

くじ引き入札は、法令に基づいた手続きであり、そのこと自体が悪いわけではない。ただし、極端な傾向に偏るのはどうかということで、当委員会からもご提言をいただいて、くじ引き回避策を導入しているところである。

(委員) くじ引きで争った業者数で最も多いのは、何者であるのか。今年と去年の数字を教えて欲しい。

(事務局) 21年度が52者、22年度は34者でのくじ引きがあった。

#### イ 施設整備事業の内配水施設 国庫補助事業 平岸配水地耐震化工事その1

(委員) 低入札価格調査とは、具体的には何をするのか。

(事務局) 現場の執行体制はどうか、工事に必要な資材その他をどのように調達してくるのか、下請に無理なお願いをしていないか、そういったことを総合的に調査して、施工が可能か、十分な品質を確保できるかを判断する。

(委員) 資料にある共同企業体要綱は、水道局独自のものか。

(事務局) 札幌市共通の取扱いである。

(委員) 入札に参加した特定共同企業体は、単独でも施工することが可能な業者か。

(事務局) 可能である。

(委員) 工事全体の落札率で比べるとこの案件の落札率はかなり低いですが、規模が大きい工事だということ傾向なのか。

(事務局) 落札率は、工事の規模だけではなく、難易度によっても変わってくる。また、低入札価格調査制度を適用する規模が大きい工事の場合、市長部局でも平均で76%くらいの落札率(21年度)なので、水道局に限らず全体的にこういった傾向である。

(委員) 調査基準価格を定める必要はあるのか。この価格を下回った業者について、低入札価格調査を行うということだが、調査が大変ではないのか。

(事務局) 調査基準価格を下回った業者全てを調査するわけではなく、その中から最も低い価格で入札を行った業者について調査を行っている。その結果、施工できないと判断した場合は、次に移っていくという流れである。

調査基準価格については、札幌市がどのラインから調査を行うのかを示していくためにも必要であると考えている。

(委員) 単体業者のほうが共同企業体よりも高い価格で入札を行っている。共同企業体のほうが低い価格で入札できるということか。

(事務局) 単体でも低い価格で入札を行うことがある。その案件によって、入札の状況は違ってくる。

#### (4) 平成22年度札幌市入札・契約等審議委員会の意見書について

審議の結果、入札・契約等審議委員会として意見書を提出することに決定した。原案については、小山委員が作成することで各委員了承。

- ・くじ引き入札について、業者数と件数の関係など、もう少し掘り下げた分析を行う
- ・成績重視型入札の拡充に当たっては、競争性が阻害されないような配慮が必要
- ・成績重視型入札の効果の検証を行う
- ・成績重視型入札を適用する場合の基準などの整理が必要ではないか

(委員) 業者登録の際のランクは、どのように決まるのか。

(事務局) 2年間の実績、自己資本額、従業員数、技術者の人数、会社の年数、こういった要素を点数化し、ランク付けを行う。また、それぞれのランクに応じた標準請負金額を定め、発注していく仕組みとなっている。

(委員) 成績重視型入札を適用する際の基準はあるのか。

(事務局) 工事の難易度や内容で判断しているため、個々具体的な基準は設けていない。

(委員) 最低制限価格を引き上げたことで、落札率が上昇しているが、やはり一般的には、下がっていくほうが望ましいのではないか。

(事務局) 経済対策の観点から昨年度に2回引き上げを行っている。確かに落札率が下がれば少ない税金で済むが、一方で品質確保や労働者へのしわ寄せの部分も同時に考えていかなければならないので、一定のレベルは必要と考えている。

(委員) 企業の利益率などのデータは、調べているのか。こういったデータがないと利益が出ているのか、価格が妥当かどうか判断できないのではないか。

(事務局) 国は、色々な調査を行ったうえで一定の基準を示している。他の政令市などもだいたい同じだが、札幌市も国の基準に準じた取扱いとしている。ただし、地域によって状況が違うので、その部分をどう考えていくかだ。

企業の利益率については、札幌市だけではなく、全体の工事量によっても変わってくるだろうと考えている。